

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 <small>おびひろ ひろお</small> 帯広・広尾自動車道（一般国道236号） <small>なかさつないたいき</small> 中札内大樹道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自： <small>ほっかいどうかさい なかさつない きょうわ</small> 北海道河西郡中札内村字協和 至： <small>ほっかいどうひろお たいき</small> 北海道広尾郡大樹町北4線	延長 23.2km				
事業概要 帯広・広尾自動車道は、帯広市を起点とし、中札内村、更別村、大樹町を經由して広尾町に至る延長約80kmの自動車専用道路である。 このうち中札内大樹道路は、高速ネットワークの拡充による近接都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾十勝港、拠点空港帯広空港への物流効率化等の支援を目的とした、中札内インターチェンジから忠類大樹インターチェンジに至る延長23.2kmの事業である。					
H7年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H20年度用地補償着手	H20年度工事着手		
全体事業費	約450億円	事業進捗率	71%	供用済延長	6.5km
計画交通量	4,800~7,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C <small>(事業全体)</small>	1.2	総費用 <small>(残事業)/事業全体</small> 118/509億円 〔事業費：79/454億円〕 〔維持管理費：39/54億円〕	総便益 <small>(残事業)/事業全体</small> 390/606億円 〔走行時間短縮便益：305/473億円〕 〔走行経費減少便益：56/85億円〕 〔交通事故減少便益：29/48億円〕	基準年 平成25年
	<small>(残事業)</small>	3.3			
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.1~1.3(交通量±10%) 【残事業】交通量：B/C=2.9~3.7(交通量±10%) 事業費：B/C=1.2~1.2(事業費±10%) 事業費：B/C=3.1~3.6(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.3~3.3(事業期間±20%)					
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①主要都市間の利便性向上 ・帯広市と広尾町間の所要時間が夏期で8分（冬期は19分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②重要港湾十勝港への利便性向上 ・帯広市と重要港湾十勝港間の所要時間が夏期で8分（冬期は19分）短縮し、物流の効率化が期待される。 ③日常活動圏中心都市への利便性向上 ・広尾町から帯広市への所要時間が短縮し、日常活動圏中心都市への利便性向上が期待される。 ④救急搬送の安定性向上 ・広尾町から帯広厚生病院（第3次医療施設）までの所要時間が夏期で8分（冬期は19分）短縮されるなど、救急搬送の安定性向上が期待される。 ⑤地域医療の安定性向上 ・通院にかかる所要時間の短縮や広尾町から帯広厚生病院までの所要時間が短縮し、地域医療の安定性向上が期待される。 ⑥CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量1,751(t-CO ₂ /年)の削減が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 帯広市など1市5町2村の首長等で構成される「高規格幹線道路帯広・広尾自動車道早期建設促進期成会」等より早期整備の要望を受けている。					

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、綿密な事業の管理に努め、より一層、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が～千歳恵庭JCT～浦幌IC、足寄ICまで開通
- ・帯広・広尾自動車道が帯広JCT～中札内ICまで開通
- ・市町村合併により、「幕別町」が誕生
- ・シーニックバイウェイ北海道「トカプチ雄大空間」指定
- ・シーニックバイウェイ北海道「南十勝夢街道」指定
- ・とかち帯広空港 帯広-東京線の2社乗り入れ（ダブルトラッキング化）
- ・十勝港 配合飼料コンビナートが本格稼働

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に工事着手して、用地進捗率99%、事業進捗率71%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成26年度 更別IC～忠類大樹IC L=16.7km (2/2) 開通予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・盛土に転用する切土の土質改良量の増加、軟弱地盤工法の変更、舗装工の変更及び土工計画の変更により事業費が増加している。
- ・中央分離帯形式の変更によりコスト縮減対策に取り組んでいる。

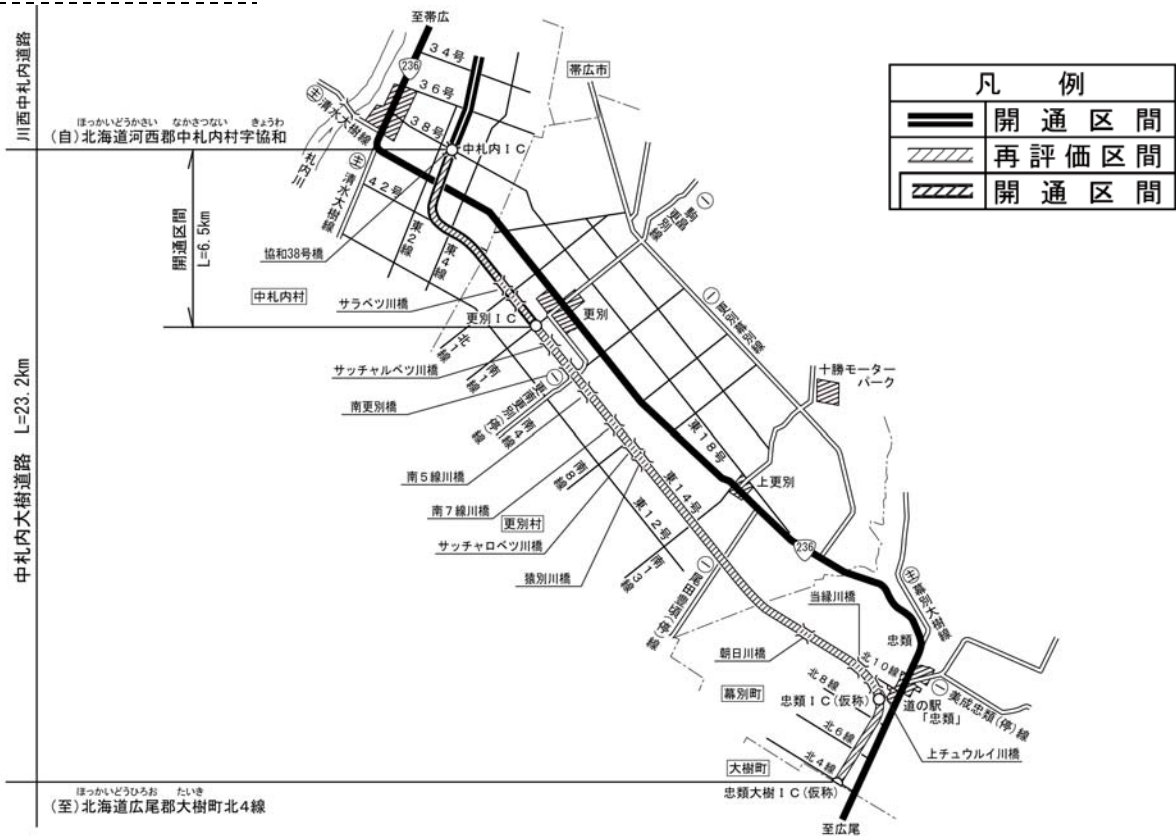
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。